日本協同教育学会 会員向けニューズレター

JASCE NEWS

学会ホームページ http://jasce.jp

067号（2022年9月30日）

目次

第18回大会プログラム公開
学会新体制
『協同と教育』への投稿募集中
第5回オンライン講座「日本の協同学習」報告
学会ワークショップ
　開催報告
　今後の予定（判明分）
　中止になった学会ワークショップ（報告）
各地の研究会・勉強会
ショートレター(会員からの投稿記事)

第18回大会プログラム公開

第18回大会を2022年10月29日（土）－30日（日）、Zoomを用いたオンラインで開催します。「年次大会のページ」に大会プログラムを掲載しました。

https://jasce.jp/conf.php

大会テーマは「これまでの学び、これからの学び」です。今大会の特徴は、研究発表・実践発表（22件）に加えて、体験的な活動や意見交換を通して学びを深めるワークショップ・ラウンドテーブルが10件予定されていることです。

奈須正裕先生（上智大学教授・中教審初等中等教育分科会臨時委員）による大会記念講演のテーマは、「個別最適化時代に協同学習に期待すること」です。集団のなかで個が育つ学びを促進する教師の専門性とは何か、個別最適な学びと協同的な学びを別枠にしないで一体的に充実させるということはどういうことなのか、子どもが自立的に学び進める学習において協同学習に期待されることはどのようなことか等々、協同学習を軸に、これまでの学びを踏まえつつ、これからの学びについての議論を深めていきましょう。

多くのみなさまのご参加をお待ちしています。

1. 大会テーマ
「これまでの学び、これからの学び」
2. 大会日程
1日目：2022年10月29日（土）9時30分～
2日目：2022年10月30日（日）9時00分～
3. 大会参加申込締切日
2022年10月14日（金）
https://jasce.jp/php/conf_sanka_form.php
4. 大会参加者専用サイト
参加者専用のサイトを開設します。大会参加費納付済みの方に「発表要旨集録閲覧サイト」「大会当日サイト」のアクセス情報をお届けします。
5. 大会に関する問合せ先
日本協同教育学会第18回大会実行委員会
E-mail: taikai@jasce.jp
第18回大会実行委員長　水野正朗

学会新体制

会長　高旗浩志（岡山大学）
副会長　水野正朗(東海学園大学)
事務局長　舟生日出男（創価大学）
理事（15名・五十音順）
緒方　巧（梅花女子大学）
甲原定房（山口県立大学）
小松誠和（久留米大学）
鮫島輝美（関西医科大学）
鹿内信善（天使大学）
高旗浩志（岡山大学）
中西良文（三重大学）
長濱文与（三重大学）
西口利文（大阪産業大学）
野上俊一（中村学園大学）
原田信之（名古屋市立大学）
舟生日出男（創価大学）
水野正朗（東海学園大学）
涌井　恵（白百合女子大学）
和田珠実（中部大学）

『協同と教育』への投稿募集中

『協同と教育』への投稿を随時受け付けています。次号は第18号が刊行されますが、投稿受理から査読を経

JASCE

て採択が決定されるまでに通常数ヶ月以上を要するため、掲載はそれ以降の号になる可能性があります。みなさまの積極的な投稿をお待ちしております。

第5回オンライン講座「日本の協同学習」報告

2022年9月17日（土）に第5回オンライン講座「日本の協同学習」を開催しました。この講座は、学会設立15周年を記念して会員の皆さまに配本した『日本の協同学習』(2019, ナカニシヤ出版）を1章ずつ学ぶものです。今回は久留米大学の安永悟先生を講師としてお迎えし、第4章「協同による高等教育の活性化―LTDにもとづく授業づくりを中心に」を学びました。

まず、話題提供前半では、LTD（Learning through discussion）の基本事項とLTD授業モデルについての説明がありました。続く話題提供後半では、LTD授業モデルの展開と課題について、先生ご自身の授業実践と関連づけながら説明がありました。安永先生の説明の後には、その都度、グループでの感想交流を行い、最後は全体交流で締めくくりました。

講座後に寄せられた受講者の感想の一部を紹介します。

「日本の協同学習について章を追って講義を聴き仲間と内容を深められるこの講座は大変ありがたいです。」「初めて参加させていただきました。初めての方と話をするのが苦手ですが、グループの時間に非常に多くのディスカッションができて良かったと思います。」「LTDコアパッケージなど新たな知見を得ることができました。改めてLTD学習法を用いた授業実践のためには多くの準備が必要だと思いました。」「LTDを実践するまでには、協同の精神、基礎段階を踏むことの重要性を学びました。」「LTDの基礎となるコアな部分としての協同学習というものをこれからも大事に、発展形としてLTDミーティングができるような授業を目指し行こうと思いました。」

参加者は会員22名と非会員7名の29名でした。情報交換会にも22名の参加があり、にぎやかな会になりました。ありがとうございました。

第6回オンライン講座は、石田裕久先生による第5章を予定しております。今後もニューズレターならびに学会HPでご案内いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

作成者：須藤文

問い合わせ先：研修委員会（kenshu@jasce.jp）

学会ワークショップ　開催報告
＜ベーシック＞

2022年8月27日（土）～28日（日）【公認】

会場：南山大学（名古屋市）

講師：和田珠実・石田裕久

南山大学人間関係研究センター主催の協同学習ワークショップ（ベーシック）が3年ぶりに開催されました。開催校から対面での実施許可が得られたのが6月中旬ということで、周知期間が短くどの程度の参加者があるか心配されましたが、幸いにも満員となる申し込み。ただ、直前になってコロナ関連のキャンセルがあり、最終的な参加者は29名でした。参加された方々からは、「協同学習の考え方をさまざまなワークを通して体験的に理解することができた」「いろんな人との意見交換や協働作業をする中で、自分自身の理解を深めることができた」「悩み迷っている最中でまだまだ何も解決していないのですが、何に迷っているのかが少し見えてきた」などの感想が寄せられました。

（石田裕久）

学会ワークショップ
今後の予定（判明分）
＜アドバンス＞

2022年11月26日（土）～27日（日）【公認】

会場：南山大学（名古屋市）D棟

方法：対面講座

講師：石田裕久・長濱文与

※新型コロナウイルスの感染状況により開催形式の変更または中止となる可能性があります（ハイブリット形式への変更はありません）。

JASCE

※この他のワークショップにつきましては、状況が整えば対面で実施する見通しです。申込み方法ならびに詳細は下記URLをご覧ください。
https://www.jasce.jp/1031workshop.php

中止になった学会ワークショップ（報告）

以下のワークショップは中止になりましたので報告します。

＜ベーシック＞

2022年9月3日（土）～ 4日（日）
【主催】 中村学園大学（福岡市）

各地の研究会・勉強会

（大阪地域）

協同学習を用いた看護教育研究会

◇8月20日（土）13：30 ～ 17：30、第44回研究会をハイブリッドによるⅡ部形式で開催し、オンラインに12名、グランフロント大阪のアクティブスタジオに15名の方が参加されました。アイスブレイクでは、「私が最近、ちょっとばかりイラッとしたこと＆なんだかとっても嬉しかったこと」を傾聴し合いました。

第Ⅰ部には、創価大学の関田一彦先生をお迎えし「アメリカの協同学習理論の受容と融合」について受講し学習しました。過日開催された、関田先生の協同学習オンライン講座に参加できなかった先生方のために企画したのですが、今回は、日本人として初めてアメリカのジョンソン兄弟のもとで協同学習理論と実践を学ばれ日本の協同教育学会の発足、協同学習のワークショップ教材の開発などをされた経緯や、ジョンソンらの『学習の輪』を翻訳された杉江修治先生との出会いのエピソード等も加えた内容で、笑いを交えて語ってくださいました。日本におけるバズ学習、個集研、協同学習の歴史を踏まえながら、協同教育が目指す教育の目的と技法との関係をベーシックとアドバンスのワークショップ内容を対比させて説明して下さり、質問にも具体的に解説して下さいました。参加者からは「自分はいつの間にか技法に偏り過ぎていたかもしれないと気づけた。協同学習の大事な根幹について、“関田先生だからこその語り”によって、あらためて立ち返り考えることができた」、「今まで抱えていた疑問、モヤモヤがスッキリと解決できた」、「更に深く協同学習を理解できたので参加して本当に良かった」などの声が聞かれました。

第Ⅱ部では建設的討論法を体験学習しました。参加者は事前学習として関田先生の翻訳書『学生参加型の大学授業』の建設的討論法の内容を学んで参加しました。当日はオンラインとスタジオでそれぞれ4人グループを3つずつ編成し、討論テーマを①「コロナワクチンの接種は続けるべきか否か」②「看護職の身だしなみは自由か否か」としました。グループ毎にテーマを①・②から選択し肯定派・否定派に分かれて討論し、途中で視点交換してさらに討論を重ねた後、肯定派と否定派で統合案を作成し、最後に看護教育における活用案についてディスカッションしました。

関田先生からは建設的討論法を用いる際の考え方・留意点について明確なご指導をいただきました。参加者からは「看護師として勤め始めた頃に病棟で生じていた“信念対立”のことを思い出した。病棟の勉強会などで建設的討論法を体験していたら、お互いに何か改善の方向へと向

2022年8月20日（土）グランフロント大阪アクティブスタジオからの撮影

JASCE

かえる気づきや手がかりが得られたのかもしれないと思った」、「“建設的討論法が持つパワー”という関田先生の言葉に触れ、まずは自分がそのパワーの体験を積み重ねなければと気づかされた」、「メンバー全員にとって納得のいく充実感や達成感を感じることができる技法で、しかも、事前に関田先生のご講義を聞いたことで、単なる技法ではなく協同教育の本質につながっていくということも確認できた」、「研究会が長時間であったことを全く感じないほどに、楽しく充実した時間だった」などの感想が聞かれました。

◇さて、本研究会は9月から発足9年目に入ります。これからも多くの方の参加を歓迎し協同学習の実践と研究の連帯を広げつつ、協同を体現化できる自身の変革と成長を図り、協同教育が目指す教育の実践力を高め合い研き（杉江先生のお言葉）合う会にして参ります。

今後は、11月26日（土）オンラインで開催、2023年1月21日（土）スタジオでの開催を予定しています。皆様のご参加を楽しみにお待ちしております。

文責：緒方巧

連絡先　代表：緒方巧（t-ogata@baika.ac.jp）

きょう探研（きょうどう探究型授業づくり研究会）

◇2022年度の第1回の協同学習研究会（きょう探鍋）を下記の通り開催します。今回は、「自由進度学習」を中心的な話題にしたいと思います。自由進度学習ついての基本的な内容、実践を行っている中学校の実践事例を紹介します。自由な意見交換を踏まえて、その可能性について深めていきたいと思います。なお、同様のテーマで、学会年次大会のラウンドテーブルを実施予定ですので、そちらの方も一緒に盛り上げていただけたらありがたいです。

テーマ：『自由進度学習における協同的な学びとは』―事例をもとに考える―

日時：10月15日（土）14：00～16：00（17：00）

内容（120分）：①自己紹介と交流、②自由進度学習の紹介、③自由進度学習の実践事例報告、④実践事例の分析と考察、⑤グループ交流、⑥全体交流

開催方法：ZOOMによるオンライン開催（参加申し込みいただいた方のみ、当日のURL等をお知らせします。）

申込方法：下記のGoogle FormのURLまたは、QRコードからお申し込みください。締め切りは10月12日（水）とします。

https://forms.gle/KqT84W59vSyJMGF57

申し込み・問い合わせ先：中村哲也（常磐会学園大学　nani7272@yahoo.co.jp）

（岡山・中国方面）
協同学習研究会

◇今年度第2回の研究会を8月20日（土）14時～17時30分に開催しました。発表者は柴原裕先生（岡山県勝央町立勝央中学校教諭）でした。柴原先生は現在、岡山県教委からの派遣により岡山大学教職大学院に在籍中です。採用後10年を目前に、同校での協同学習の取組とその蓄積を踏まえ、ご自身の授業の課題を見つめ、中学3年の「平方根」の単元による授業を公開して頂きました。協議は①問いや疑問をもつ、②自他を共に認め合えるような場面を設ける、という2点に絞り、Zoomのブレイクアウトセッションや全体共有を活用して行いました。全国から35名にご参加頂き，活発な意見交換がなされ、発表者と参加者双方に実りのある研究会となりました。

◇次回は12月3日（土）14時～17時30分です。岡山県倉敷市立玉島北中学校の久常俊作先生（社会科）のご発表です。お問い合わせは高旗浩志（岡山大学教師教育開発センター takahata@okayama-u.ac.jp）までお願いします。

（全地域）
全国看図アプローチ研究会

◇『全国看図アプローチ研究会研究誌』13号を公刊しました。定時制高校にまでフィールドが広がってきました。

掲載論文

1.「看図作文」の授業レポート－「20枚の絵図」で願いを伝える－
http://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.13_pp.3-17.pdf
（森 寛）

2. 看図アプローチを取り入れた成人看護学実習－術後看護における“気づき”への第一歩－
http://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.13_pp.19-33.pdf

JASCE

（藤井愛美・山下雅佳実・石田ゆき）
3. 看図アプローチを活用した定時制高校における英作文の授業実践
http://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.13_pp.35-51.pdf
（江草千春）
◇『全国看図アプローチ研究会研究誌』14号の掲載論文も応用可能性の高いものばかりです。御一読ください。
掲載論文
1. 1年生がスムーズに説明文が書けることを目指して
－みぶりが伝える内容を文章化するための看図アプローチ－
http://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.14_pp.3-21.pdf
（田中 岬）
2. 看図アプローチを取り入れた看護過程を理解するための試み
http://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.14_pp.23-32.pdf
（村山信子・久保田睦子）
3.「看図作文」の授業を始めたくなったら－コレだけ知っていれば，自信をもてる！－
http://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.14_pp.33-46.pdf
（森 寛）
連絡先：研究会事務局長 山下雅佳実
（a-yama@nakamura-u.ac.jp）

ショートレター　会員からの投稿記事

オンラインでの協同学習をうまくいかせるために
―「進行表」による活動の支援―

「協同学習について勉強していて本当によかった」。これが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴うオンライン授業実施からしばらく経った時点で、最も強く感じていたことでした。

とはいえ、最初のオンライン授業は散々なものでした。それは、私の所属する教育学部の1年生約200名全員を対象とした、4年間の学びの見通しを考えさせる完全オンライン（リアルタイム配信）の授業でしたが、例年とほぼ同様の内容・進行で、少しの講義の後に小グループ活動を行ったところ、ほとんどのグループが全員カメラオフ、グループによってはマイクもオフで話しかけても返答がないなど、全くの大失敗でした。このような手痛い体験から、「本気で何とかしないといけない」というスイッチが入ったのですが、そのとき大いに役に立ったのが、協同学習について勉強してきたことでした。

考えてみるに、オンラインで学習活動を行うことについては、教員も学生も全く慣れておらず、それに対する十分な「足場づくり」となる豊富な支援が必要であったのでした。そして、その足場づくりとして、協同学習の基本となる「構造化」「課題の明示」（杉江、2011）を通信環境にかかわらず学生にきちんと届く形で行うこと、「社会的技能の育成と活用」（ジョンソン・ジョンソン・スミス、2001）を考え授業のある程度のパターン化をすることが重要であると見えてきました。また、オンラインでの小グループ活動においては、各グループが独立して学びを進めていくため、その理想的な姿として、LTD話し合い学習法での学びの姿（安永、2006）をイメージして、そこに近づけていけるよう考えました。こういったことを、いつ途切れるか分からないオンライン通信だけで実現するため、これらの支援を電子ファイルの文書として渡すことで進めることにしました。

そこで実際に行ったのが「進行表」を用いた活動の支援です。「進行表」とは言葉のとおり、小グループ活動の進行の仕方を事細かに示したものです。この進行表は3列構成になっており、一番左に配分時間とその時間に行うことの概要、真ん中にその時間に行うことの詳細、一番右に備考を示しました。教育関係者の方には、

JASCE

「3列構成の指導案」のようなものを学生全員に渡していたと考えていただくとイメージしやすいかもしれません。この進行表を毎回の授業内容に合わせて作成し、それを元に小グループの活動を行いました。

この進行表を作るにあたって特に考えたことは、毎回、基本的には同じパターンで行うこと（具体的には、最初の活動として、オススメのものなどを紹介し合うウォーミングアップを行い、続いてメイン活動を行い、最後にリフレクションを行った）、知らない人同士であっても誰からどういう順番で進めていくかが明確になること（進行を行う進行係を教師が決めておくとともに、学籍番号や名前の五十音順などオンラインでもすぐに決められる順番を指定しておく）、何をすればよいかに関して可能な限り（進行係が話す）「セリフ」をつけておくこと（セリフにおいても「課題の明示」が反映されているため、ページの1/3ほどのセリフになることもあった）、そして、タイムキープや個人思考の指示、時間を持てあました場合の活動の指示などもグループ内で進行係が行う、ということでした。なお、3列構成の表の上側、進行表の冒頭となるところには、「課題の明示」をすべく小グループ活動で行うことを具体的な行動レベルで示しました。

このような進行表を用いた実践によって、小グループ活動が成立するだけでなく、深いところまで議論を進めている様子が見られました。さらには、授業で出された課題を越えて、発展的なところまで議論を進める様子も見られ、進行表による支援によって、学生自身で自主的・自律的にグループ活動を行っているという意識を持たせることにもつながったのではないかと感じられました。

今後もオンライン授業がその意味合いを少しずつ変えながら残り続けると予想され、オンラインでの協同学習を行う機会も存在し続けると考えられます。そういったオンライン状況下での協同学習においては、学習者が慣れていないことが非常に多いのだということを念頭に置き、よりたくさんの足場づくりをするよう心がけることが重要であると考えられます。そして、本稿で紹介した進行表がその足場づくりをする1つの手立てになればと考えています。

文献

D.W. ジョンソン・R.T. ジョンソン・K.A. スミス（2001）.学生参加型の大学授業 ― 協同学習への実践ガイド 関田一彦（編訳）玉川大学出版部（D. W. Johnson., R. T. Johnson & K. A. Smith 1991 Active Learning: Cooperation in the College Classroom. Edina, MN: Interaction Book Company.）

杉江修治 （2011）. 協同学習入門―基本の理解と51の工夫 ナカニシヤ出版

安永悟 （2006）. 実践・LTD話し合い学習法 ナカニシヤ出版

（三重大学 教職大学院／教育学部 中西良文）

当学会事務局の誤記載について（お詫び）

拝啓 初秋の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。表題の件、「協同と教育 第17号」を皆様へ発送の際に使用しました封筒に誤記載がございました。

誤） 創価大学教育学部・久保田秀明 研究室内 042-691-5597
正） 創価大学教育学部・舟生日出男 研究室内 042-691-6939

原因は同じ封筒を使用して昨年発送をした際、協力会社に上記情報に改めるよう、指示をしたのですが、これが正しく行われず、今回も間違った情報を記載した封筒で皆様のお手元にお送りしてしまった次第です。

今後同様のことが無いよう、協力会社への指導を徹底するとともに、皆様におかれましては上記情報の訂正をお願い致します。

皆様の益々のご健勝を祈念いたしますと共に、今後とも学会活動へのご理解ご協力を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

敬具

令和4年9月9日
日本協同教育学会事務局